

北条道路でARデモ開催

地元関係者が現地確認

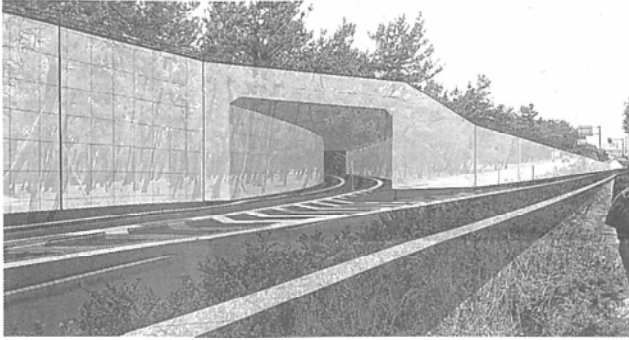
復建調査設計は23日、AR(Augmented Reality)技術を使ったデモンストレーションを北条道路(山陰道)が計画される鳥取県東伯郡の道の駅大栄付近で開いた。当日

は、地元関係者を対象に新しい技術を活用した道路完成イメージなどが披露された。

これまで地元関係者説明会では、道路計画を記載した図面などを用いて説



AR技術体験のようす



実際のAR映像

明が行われてきたが、図面になじみのない人にとっては理解しにくいという課題があった。そのため、倉吉河川国道事務所から業務受託している同社は、実際の現地で実物大の道路3次元モデルが確認できるAR技術を提案。

図面説明とのすり合わせや円滑な合意形成に向けて、地元関係者にこの技術

術を体験してもらった。

ARは、見えるものすべてが仮想空間で構成されるVR(Virtual Reality)に対し、現実空間と仮想空間を融合させたもの

となる。さらに、今回のデモでは日本版GPS(みちびき)の衛星電波を使用。媒体の位置情報を計算させることで、実際の

現地映像と3次元道路モデルが重なったイメージを同一画面で確認できる

ようになっている。

デモで使われたシステムは「Site Vision」(GyroEye Hole)。スマートフォンやタブレット、ホロ

ーレンズを通じて、現地映像と道路計画の一元的な視覚が可能となり、参

加した地元関係者はそれらを用いながら、実際の

構造物の位置や用地の境界などを確認していた。

なお、北条道路は2026年度の開通をめざして

事業が進められている。